

## ごあいさつ

本号の特集は「アート」です。美学・芸術学が専門の吉岡洋先生が企画し、香港で活躍するアーティストへのインタビューを含め、多様な分野で活躍するアーティストの現在が浮かび上がるユニークな特集号です。人は、1枚の絵、1つの塑像にこころを動かされ、その作品に出会うために遠くまで旅をすることがあります。1つのアート作品との一度の出会いが、深く記憶に刻みこまれることもあります。そのパワーは何なのか、こころの科学研究がかなり進んできた今も、アートのもつ影響力はなぞに満ちています。古代の壁画修復に携わっている専門家の方から、「古代の人たちのアート技法にはとんでもなくすごいものがあり、それを今の芸術家がまねようとしても再現できない」と聞いたことがあります。現代のアーティストの作品や活動から、私たちは後世の人たちが「とんでもない」と感じる何かを読み取ることができるでしょうか。アート進行形。

2017年7月

京都大学こころの未来研究センター長 吉川左紀子

こころの未来  
KOKORO RESEARCH CENTER  
KYOTO UNIVERSITY

2017 vol. 17

目次

ごあいさつ	吉川左紀子
01 巻頭言 震災とアート	鷺田清一
〈特集 アート進行形〉	
02 エッセイ 芸術の現在と未来	吉岡 洋
04 ジャムセン・ローさんインタビュー アートはインタラクティブ	ジャムセン・ロー+吉岡 洋
10 高橋瑞木さんインタビュー マンガから香港「MILL6」まで	高橋瑞木+吉岡 洋
16 高嶺格さんインタビュー 感覚は共有できないことを経験したい	高嶺 格+吉岡 洋
20 光島貴之さんインタビュー 見られていることを意識すると見えてくるものがある	光島貴之+吉岡 洋
24 鼎談 嶋本昭三の〈ミーム〉たち	西沢みゆき+ヤマモトヨシコ+吉岡 洋
30 論考 関わる方法——国際的文脈からみた社会的関与芸術	グナラン・ナダラヤン (吉岡 洋訳)
35 論考 「コモン・アフェアーズ」——何がコモンなのか	加須屋明子
39 論考 心の科学を通して、「美」をどう学ぶか	川畑秀明
研究プロジェクト	
43 研究プロジェクト一覧(平成27年度)	
44 生態智の拠点としての聖地文化——こころ・場所・癒しの研究	鎌田東二
45 身体疾患・症状に関する心理療法の研究	河合俊雄
46 遂行機能の実行に関わる前頭葉ネットワークの解明	船橋新太郎
47 意思決定と社会性の神経基盤の研究	阿部修士
48 終末期に対する早期支援	冲永隆子+カール・ベッカー
49 地域の幸福プロジェクト	内田由紀子+福島慎太郎
50 こころ親の思想史的・比較文化論的基礎研究(人類はこころをどのようにとらえてきたか?)	鎌田東二
51 こころとモノをつなぐワザの研究——伝統芸能・武道における心技体の研究を中心に	鎌田東二
52 こころの古層と現代の意識	河合俊雄
53 前頭葉機能検査成績の発達に伴う変化	船橋新太郎
54 出生をめぐる医療と倫理	赤塚京子+カール・ベッカー
55 東日本大震災関連プロジェクト——こころの再生に向けて	鎌田東二
56 被災地のこころときずなの再生に芸術実践が果たしうる役割を検証する基盤研究IV	大西宏志
57 心理療法場面にみられる象徴化機能の現代的問題に関する臨床心理学的研究——事例にみられるイメージ表現から	前川美行
58 子どもの発達障害と作業療法	長岡千賀
59 自然のもつ文化的・教育的・芸術的価値とは——市民の価値判断を反映したマネジメントに向けて	伊勢武史
60 甲状腺疾患におけるこころの働きとケア	長谷川千紘
61 高齢者の認知能力に及ぼす運動スキルの影響とその神経基盤	積山 薫
62 センターの主な動向(2016年4月~2016年9月)	
編集後記	

## 編集後記

芸術はそもそも知に抵抗する本質を持つが、そこを無理やり知ろうと試みるのが芸術研究である。したがって、それは必ず失敗する。けれどもそこにはつまらない失敗と面白い失敗とがあり、後者を指すのが正しい芸術研究であると言える。(吉岡 洋)

吉岡先生にすっかりお任せ状態だったが、画期的な号になったと思う。個人的には商店街などアートと地域・社会との関わりに関心があり、また日本のマンガの哲学的な深さにはインパクトを受けることが多い(最近では星野之宣など)。海外を見るとアートや文化の公共政策も重要だ。(広井良典)

認知機能障害の原因となる脳損傷を経て、突如として絵画をはじめとする芸術的才能を発揮した、とする事例が少なからず報告されている。本特集号のテーマである「アート」に関わるこころのはたらきは(少なくとも一部の側面や事例においては)、ある種独特な性質を持つのだろう。(阿部修士)

今号は、まさにアート一色であるが、アートと言っても一様ではなく、芸術家、美術研究者、異分野の研究者など、立場が異なればアートの見え方(見せ方)も多種多様であると、改めて気づかされる号となった。(熊谷誠慈)

本号の刺激的なインタビューや論考によって、アートは五感を悦ばすだけでなく、いかに哲学的な行為であるかに気づかされた。アートと社会との関わりというテーマも今日的で、しかも本質的だ。ここからどんな世界が展開されていくのか、興味は尽きない。(原 章)

こころの未来  
KOKORO RESEARCH CENTER  
KYOTO UNIVERSITY

第17号

発行日 ..... 2017年7月30日

発行 ..... 京都大学こころの未来研究センター  
〒606-8501  
京都市左京区吉田下阿達町46 京都大学福盛財団記念館内  
電話 075-753-9670 FAX 075-753-9680  
http://kokoro.kyoto-u.ac.jp/

編集委員 ..... 吉岡 洋+広井良典+阿部修士+熊谷誠慈

表紙写真 ..... 香港のマーケット ©iStock.com/RichLegg

編集・制作 ..... 編集工房レイヴン 原 章

デザイン ..... 鷺草デザイン事務所 尾崎閑也+東浩美

印刷 ..... 株式会社NPCコーポレーション